

北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

1. 今後の見通し

予測期間: 2004年11月下旬から12月中旬までの旬別
 対象海域: 道東海域、三陸海域、常磐海域
 対象漁業: さんま棒受網漁業
 対象魚群: 南下回遊群

1) 道東海域

(1) 来遊量: 来遊量はさらに減少する。

(2) 漁場: 漁船による操業はない。

2) 三陸海域

(1) 来遊量: 11月中旬に引き続き、11月下旬も減少を続け、低位水準となる。12月上旬以降は断続的になる。

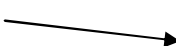
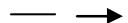
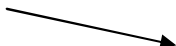
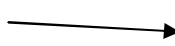
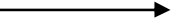
(2) 漁場: 南偏傾向で推移する。

3) 常磐海域

(1) 来遊量: 11月下旬は急減し、12月上旬以降は低位水準となる。

(2) 漁場: 11月下旬は、日立沖の漁場が散発的となり、鹿島灘が主漁場となる。鹿島灘の漁場は、12月中旬まで持続する。

2. 予測の概要

海 域		11月下旬	12月上旬	12月中旬
道東海域	来遊量			
	動向			
	漁 場			
三陸海域	来遊量			
	動向	低位減少	断続的	
	漁 場	南偏傾向	南偏傾向	
常磐海域	来遊量			
	動向	急減	低位減少	低位水準
	漁 場	日立沖～鹿島灘	鹿島灘	鹿島灘

3. 漁況の経過概要

(11月上旬)

1) 道東海域

来遊量の減少に伴い、道東海域における棒受網漁業は、10月下旬でほぼ終漁し、操業船は無かった。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、中位水準ではあるものの、10月下旬をやや下回った。昨年・平年並みの水準。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、6日夜~7日夜に来遊量が増加したが、その後徐々に減少した模様。

(2) 漁場

今期は、黒崎東沖~釜石東沖と大船渡沖~金華山沖が主漁場であった。

黒崎東 10 海里~釜石東 10 海里の表面水温 13~15 では、5 日夜~8 日夜に漁場となった。漁獲量は、小型船で 10~20 トン、大型船で 30~80 トン程度。

大船渡東 25 海里~金華山南東 25 海里の表面水温 13~18 では、連日漁場となった。漁獲量は、多い日で最高 70~80 トン程度であったが、多くの船は 5~30 トン程度。

(3) 魚体

大 1-中 4-小 5~1-3-6 が主体で、1-2-7 や 0-2-8 が混じる。群により差がある。大型魚の体長は、30~31cm モード、中型魚は 27cm モードであった。

3) 常磐海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、10月下旬から増加し、高位水準となった。平年・昨年をやや上回る水準。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、期前半の3日夜~4日夜に来遊量が増加したが、その後徐々に減少。9日夜頃に再び増加した模様。

(2) 漁場

今期は、相馬東北東沖~小名浜東沖と、日立東沖~犬吠埼東北東沖が主漁場であった。

相馬東北東 40 海里~小名浜東 20 海里の表面水温 17~21 付近では、期後半の8日夜以降漁場となった。漁獲量は、最高 55~80 トンで、10~50 トン程度漁獲する船が多かった。

日立東 20 海里~犬吠埼東北東 15 海里付近の表面水温 17~19 では、連日漁場となった。漁獲量は、船間差大きく、最高 50~70 トン、多くの船は数トン~35 トン程度であった。

(3) 魚体

1-4-5~1-3-6 が主体で、1-5-4 が混じる。大型魚の体長は、30~31cm モード、中型魚は 27~28cm モードであった。体重は、80g と 120~130g 主体。